

論議された主な政策課題調書(令和5年6月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
教委総務課	堀内伸悟議員	本会議	熱中症対策の推進について	各施設において空調設備を活用するための電気代の手当は十分か。	現時点において必要な予算は確保できていると考えるが、今後不足が生じた場合においても、必要な額を確保していく。
教・総務課	竹内茂議員	本会議	小・中学校の校舎のトイレ洋式化について	学校トイレの洋式化について要望してきているが、なかなか進まず、校舎によっては遅れが目立つ。 校舎別の洋式化の状況と、遅れの解消はいつになるのかを伺う。	主に普通教室のある小・中学校の校舎は178棟あり、そのうち、女子トイレの洋式便器の比率が3分の1以下の校舎は、28棟で15.7%である。 これらの校舎のうち約4割は、5年以内に長寿命化改修・予防保全改修の実施を見込んでおり、トイレ改修も合わせて行うことで、トイレ環境の改善が図られる見込みである。また、学校からの要望により、児童・生徒の事情などを考慮し、部分的に洋式化を実施するなどの対応を行う。 今後とも、国庫補助を活用した大規模改修に合わせてトイレ改修を実施する。
教・総務課	市川和彦議員	本会議	大豆島小学校の教育環境整備について	大豆島小学校の教育環境整備に関し、具体的な整備方針の検討状況について伺う。	大豆島小学校校舎の耐力度調査の結果は、新しい西校舎を除き、北校舎・東校舎・南校舎が、いずれも基準値である4,500点を下回り、改築の方向に進むことが適当であることを確認した。 今後は、地域や学校関係者の意見を聴きながら、整備の方針を具体化するとともに、諸課題を総合的に判断し、教育環境の整備に引き続き取り組む。
学校教育課	金沢敦志 議員	本会議	長野市及び青木島小学校区 子ども・子育て環境の充実について	市長は「長野市版 新しい水泳学習」への推進をどのように感じられているか所見を伺う。	現在、教育委員会では、学校プール施設が老朽化した学校から順次、「長野市版 新しい水泳学習」への移行を進めている。本事業は、学校プール施設の老朽化や教職員の働き方改革など、近年の水泳学習を取り巻く環境の変化を踏まえ、民間事業者の理解と協力の下で、小・中学校の水泳学習の充実を図る取組となっている。これまで学校プールで行ってきた水泳学習の良さを踏まえつつ、天候に左右されない充実した学習環境や、インストラクターによる質の高い指導により、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成につながるものと認識しており、また子どもの思いに寄り添った学びの充実につながっていると感じている。
学校教育課	金沢敦志 議員	本会議	SaSaLAND開設に向けた準備状況と今後の見通しについて	①SaSaLAND開設に向けた現在までの取組状況と今後の見通しについて伺う。 ②子供の地域拠点として、外部の協力者など、地域の協力者を入れる予定はあるのか伺う。 ③中学卒業により支援が途切れず続くことが必要であるとするが、支援の継続性について伺う。	現在までの取組状況と今後の見通しについて、準備状況については、これまで七二会地区区長会での説明会をはじめとし、近隣住民の皆様や旧笹平分校の通学区であった、区の皆様、七二会地区住民自治協議会への説明会や全戸へのチラシの配布を通して、意見や要望をお聞きしてきた。 現在は、七二会地区住民自治協議会、不登校親の会、信州大学教育学部、こども総合支援センター「あのえっと」などで構成する運営協議会「SaSaサポーターミーティング」を開催し、今後の運営内容をご協議いただき、準備を進めている。 本ミーティングでは、当事者である子ども、保護者の意見をできるだけお聞きし、運営に反映していくことを一番の柱として、大切にしている。 外部の協力者については、信州大学教育学部の先生方に、本事業の構想段階から心理、特別支援教育、野外教育、ICT教育等の専門的な立場でご助言をいただいている。特に、ICT教育に関しては、児童生徒が自宅に居ながら通える「メタバースSaSaLAND」を仮想空間上に作り、オンラインを活用した新たな支援の仕組みの創設を検討している。 また、地域の協力者につきましては、心理や特別支援教育の先生方を講師に、七二会地区の皆様に向けた不登校児童生徒の理解を深める研修会を実施し、児童生徒が地域の皆様と関わりながら学ぶことができる機会を創出していく。 義務教育を終える中学卒業後の若者への切れ目のない支援が必要と認識しており、SaSaLANDにおいては、本ミーティングに参加いただいているこども総合支援センター「あのえっと」と連携し、中学校を卒業した子どもの受け入れについても検討していく。

論議された主な政策課題調書(令和5年6月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
学校教育課	金沢敦志 議員	本会議	SaSaLAND開設に向けた準備状況と今後の見通しについて	④長野市東部地区へ第2のSaSaLANDを整備してはどうか考えるが、市の考えを伺う、 ⑤心理や福祉に関わる専門家との連携も必要であると思うが、市の考えを伺う。	第2のSaSaLANDの整備については、SaSaLANDの運営を軌道に乗せるとともに、今年度から再開した豊野地区の教育支援センター「かがやき」を含めた市内7カ所の既存の教育支援センターと連動して、児童生徒や保護者への支援の充実を図っていく。また、市教育委員会では、フリースクールなどの民間施設と連携し、情報交換の機会を設けることや、保護者への情報提供のための各施設・団体の説明会を開催することにより、不登校児童生徒の学びの場の選択肢が広がるように努めている。 その上で、他地区への新たな教育支援センターの設置につきましては、各施設の利用状況や通所の利便性、施設の老朽化等を考慮するとともに、既存の教育支援センターのような小さな空間の居場所を希望する児童生徒もいることから児童生徒や保護者のご意見をお聞きしながら研究していく。 心理や福祉の専門家との連携については、信州大学教育学部の先生方をはじめ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家と連携し、児童生徒や保護者が抱える課題の改善に向けたアドバイスや関係機関とのネットワークの構築ができるよう努めている。SaSaLANDのコンセプトである「子どもが安心を実感できる居場所」となるよう、SaSaサポーターミーティングや現地見学会などの場での声を一つ一つ丁寧に受け止め、準備を進めていく。
学校教育課	野々村博美 議員	本会議	長野市こども“のびのび”ビジョンと青木島こども未来プラン(案)について	長野市こども“のびのび”ビジョンによる学校の敷地を地域に開放することに関して、長野市でも不審者の侵入、子どもへの危害など事件が発生している中で、慎重な対応が求められるが見解を伺う。	長野市こども“のびのび”ビジョンでは、外部から自由に出入りできるエリアを区切るなど安全に十分配慮するとしているため、地域等への開放については、不審者の侵入に対して、より慎重に検討する必要がある。本市の学校は、立地環境や人数規模、校舎環境など様々であるため、本ビジョンを学校や地域の実情に合わせ、各校の意向を十分考慮し、検討する際には、学校関係者や保護者、地域の方々と意見交換を重ね、丁寧に進めていく。
学校教育課	倉野立人 議員	本会議	青木島こども未来プラン(案)について	プールの跡地利用における新たな遊園地に関して、セキュリティ対策、地域の幼児への開放やセンターの児童の利用について考えを伺う。またプールの跡地利用について市民意見を聞いて柔軟に考えるつもりがあるか伺う。	本プラン(案)は、児童センター、プラザ、保育園、学校の子育てに係る施設における諸課題を一体的に連動的に解決した上で、未来に向けてより良い方向を目指すものである。プール跡地における遊び場は、センターとプラザの統合により、新たな遊び場の設置で、体力差が異なる低学年と高学年の混在による危険性の回避や、一定の使用ルールを定めた上で、学校の休み時間やプラザの活動時間の利用に加え、幼児など地域に開放をすることで、遊び場の有効活用の可能性を考えたものである。一方で地域への開放に当たっては、学校の安全対策に万全を期することが必要であり、これらの諸課題は、現在、教職員や保護者に向けた意見交換会を開催し、本プラン(案)に関する意見、要望、質問など聞いている。 引き続き意見交換を重ねる中で、結論を急ぐことなく、柔軟に対応していく。
学校教育課	堀内伸悟 議員	本会議	熱中症対策について	各施設における空調設備を活用するための電気代の手当、学校に通う子どもたちの通学時の熱中症対策の取り組み、及び熱中症警戒情報が発令された場合の対応について伺う。	各学校に設置したエアコンの使用については、エアコン運用指針を定めている。指針では、温度設定を「28℃」としているが、現場の状況に応じた弾力的な運用は可能である。 使用したエアコン電気料は、現時点では予算の確保はできているが、今後不足が生じた場合でも、関係課との協議により必要な額を確保する。 教育委員会から各学校に示している熱中症対策マニュアルには、登下校時での熱中症予防措置として、涼しい服装や帽子の着用、適切な水分補給について指導を示しており、登下校中での水分補給ができることや自分の体調に応じて、指示がなくても水分補給を行うことなど児童生徒に促し、保護者にも呼び掛けている。 県内に暑さ指数情報で「警戒」以上の情報が発表された場合、教育委員会は、各学校に活動内容を適切に判断するよう注意喚起を行っており、各学校では、激しい運動を控え、小まめに休息をとるなど対策を講じている。また日頃から体育館等に設置された熱中症指数計の指数を確認し、活動内容の変更や休み時間等の体育館や校庭の使用制限など、児童生徒の体調も見ながら、安全で安心な教育活動となるよう心掛けている。
学校教育課	小林史子 議員	本会議	子ども・若者の居場所について	長野市立の小中学校の不登校児童生徒数と不登校傾向児童生徒数について伺う。	令和3年度における、年間30日以上欠席をした不登校児童生徒数は、小学校201人、中学校452人、合計653人。 不登校傾向の児童生徒数につきましては、文部科学省では「不登校傾向」の定義がないことから、正確な数は把握していないが、令和4年10月のSaSaLANDの意向調査の際、各学校に、不登校または不登校傾向のある児童生徒を対象にする旨を依頼をした結果、約800人となり、現段階では数が推計される人数であると捉えている。

論議された主な政策課題調書(令和5年6月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
学校教育課	若林祥 議員	本会議	支援の必要な子どもの居場所について 教育支援センターSaSaLANDモデルの設置について	施設規模の割に利用希望者も多く、市の西部に片寄っており、利便性も考慮し、他地区への設置も必要だと思いが、検討の有無を含め、状況を伺う。	本市においても不登校児童生徒数は増加傾向にあるため、新たな受け入れ施設の必要性を認識している。また、令和5年3月に文部科学省から発出された「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策(COCOLOプラン)」においても、不登校児童生徒全ての学びの場の確保が求められている。 これらの状況の中、本市では今年度から豊野地区の教育支援センター「かがやき」の運営を再開するとともに、令和6年4月には、「SaSaLAND」の開所を予定しており、これまで以上に広域にわたり、児童生徒への支援が可能となるのではないかと考えている。 また、SaSaLANDを中核として、各教育支援センターとの間で合同の活動を行い、子ども同士がつながる機会を生み出すことや、自宅を居場所とする児童生徒も、オンラインを活用した仮想空間上で、他者と関わることができる「メタバースSaSaLAND」を活用するなどして、新たな支援の仕組みを創設する。 さらに、市教育委員会では、フリースクールなどの民間施設との連携を推進する中で、継続的な情報交換の機会を設けることや、保護者への情報提供を目的とした各施設・団体の説明会を開催することにより、不登校児童生徒の学びの場の選択肢が広がるように努めている。 他地区への新たな教育支援センターの設置については、各施設の利用状況や通所の利便性、施設の老朽化等を考慮するとともに、既存の教育支援センターのような小さな空間の居場所を希望する児童生徒もいることから、児童生徒や保護者のご意見をお聞きしながら研究する。
学校教育課	竹内茂 議員	本会議	旧七二会小学校笹平分校「SaSaLAND」開設について	①現在の準備状況を伺う。 ②民間施設等との協議・連携の状況について伺う。 ③人材確保と理念の共有をどのように行うのか見解と状況を伺う。 ④改修計画について伺う。 ⑤七二会地区の理解について伺う。 ⑥現地までの送迎対策について伺う。	現在の準備状況については、本年4月、七二会地区住民自治協議会、不登校親の会、信州大学教育学部、こども総合支援センター「あのえっと」などで構成する運営協議会「SaSaサポーターミーティング」を設置し、開所に向けた準備を進めているところ。 民間施設等との協議・連携については、学校以外の学びの場の確保のために、民間施設や教育支援センターとの情報交換会を定期的に開催する中で、学校以外の居場所説明会も同時に開催するなどして、民間施設等との連携を推進している。 人材の確保と理念の共有については、現在SaSaサポーターミーティングにおいて、運営の方向性などを踏まえて、当事者の意見を丁寧にお聞きしながら人員体制を検討しており、開所前には、事前研修会を開催して理念の共有を図っていききたい。 改修計画については、「ながの育ちと学びの場フォーラム」において、当事者からいただいた要望・意見や地域の説明会でいただいた意見をできる限り反映し、工事を進めていく。 七二会地区の皆様のご理解については、これまで地域ごと、あるいは全体での住民説明会や協議を重ねており、その結果、SaSaLANDの設置に大きな期待の声をいただいている。現在では、七二会地区住民自治協議会からもSaSaサポーターミーティングにご参画いただき、地元の視点からも大変貴重なご意見をいただいております。今後も地域の皆様と連携し、児童生徒が地域との関わりの中で成長できるよう取り組んでいく。 送迎対策については、SaSaLANDは、中心市街地から車で約30分の場所に位置しているため、子どもが自力で通所することが難しく、保護者送迎による負担も考慮し、送迎バスの運行を予定している。
学校教育課	小泉一真 議員	本会議	青木島遊園地廃止後の收拾策について	青木島遊園地廃止後の收拾策の検証について伺う。	手続きや進め方が要綱等で定められていないことも含めて適切でない部分がなかったのか、住民の合意形成に当たり何が課題だったのか一連の事務を整理する中で課題解決を進め、市民からの信用の回復に努めていく。
学校教育課	小泉一真 議員	本会議	“のびのび”ビジョンについて	教育委員会に青木島小学校での今後の余裕教室の見込みについて伺う。	現在、青木島小学校内では余裕教室はなく、今後、子供の減少と放課後の空き教室の使いみち次第である。

論議された主な政策課題調査(令和5年6月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項目	内容	今後の対応(方針)
学校教育課	市川和彦 議員	本会議	教育行政について 学校教育と社会教育の連携「もう一つの学校」について	いつでも、だれでも、どこでも学べる学校教育以外の場として、地域社会での多様な教育環境を整えるために、学校と地域が連携した子どもの教育に関する現状の取組について伺う。	市教育委員会では、青少年健全育成事業の一環として、住民自治協議会や育成会等の団体に補助金を交付し、地域が主体となって行う子どもたちの体験活動を支援している。 第三期しなのきプランでは、「協働」をキーワードに、開かれた学校づくりを目指し、地域・家庭・事業所との協働・分担を重点取組に位置付けている。学校、地域、保護者の代表が集まり、子どもたちの成長を支えていくための学校づくりや協働の在り方について意見交換を行うコミュニティスクールを全校に設置し、地域と学校との関係性をより深め、協働・分担の共有化を図りながら、地域の方々に教育活動を支援いただいている。 地域全体で子どもたちを育てる環境づくりの取組では、学校以外の居場所である地域のフリースクール等民間施設を紹介し、民間施設やNPO団体との連携を強化している。 夏休みや週末に開催する「わくわくリーダーズなごの」や「ナガノスーパーサイエンスプロジェクト」では、学校教育の枠にとらわれず、子どもたちが地域に出て、体験を通して学ぶ機会を設け、子どもたちの自学自習の資質能力の伸張を図っている。 学校の部活動では、県スポーツ課や庁内関係部局と連携して、地域への移行を進め、子どもたちが伸び伸びとスポーツ・文化芸術活動に取り組める環境づくりを進めている。 今後も、学校と地域・事業所が協働・分担して、子どもたちの心身の調和のとれた発達と自立を願い、地域全体で子どもたちを育む環境づくりを目指し、取組を進めていく。
保健給食課	野々村博美 議員	本会議	学校給食費の無償化について	見解を伺う。	継続的に大きな財源が必要となることから、他の支援策とのバランスや国の動向を注視しながら慎重に研究したい。
家庭・地域学びの課	桜井篤議員	本会議	成人式の開催方法について	地元の中学校へ通っていない成人を対象とした、現在の成人式とは別の成人式の開催について、教育委員会が事務局となり、各中学校の成人式対象者の代表からなる実行委員会を組織し、自分たちがやりたい成人式を企画してもらったらいかがか。教育長の所見を伺う。	式典を主としたものは地区ごとに継続し、現在多くの地域が行っている成人の日に行う式の終了後に「二十歳の同窓会」といった、地域を越えて一堂に集える機会を新たに設けることについて、関係民間団体と協議するなど検討したい。
教・総務課	市川和彦議員	委員会	学校施設の整備について	長寿命化改修工事に合わせてトイレ改修、エアコン整備等を行う方針とのことだが、体育館へのエアコン整備と、学校の安全対策としての周囲へのフェンス設置についての考えを伺う。	体育館へのエアコン整備は、現状の体育館の造りに断熱性・気密性がないことから、改修に合わせて行うことは困難であり、実施できるとすれば改築のタイミングと考えている。 学校へのフェンスの設置については、市内で全面がフェンスに囲まれている学校はない。開かれた学校づくりと学校の安全対策との兼ね合いもあり、全面フェンスの設置については、現時点では考えていない。
教・総務課	竹内茂議員	委員会	小・中学校の校舎のトイレ洋式化について	本会議で質問をして答弁をいただいたが、もっとトイレ環境改善の速度を上げられないか。	答弁のとおり、トイレ改修については、国の補助金を活用した長寿命化改修に合わせて実施することを基本とするが、児童・生徒の事情を考慮し、個別にトイレ洋式化工事を行う場合があるため、学校の声を聴きながら対応してゆく。
学校教育課	小泉栄正 議員	委員会	SaSaLANDについて	七二会小学校笹平分校を廃止してSaSaLANDとした際、行政財産となるのか。また、所管はどうなるか。	行政財産となる。教育委員会の管理となる。

論議された主な政策課題調書(令和5年6月議会)

(教育委員会)

所属課	質問議員	区分	項 目	内 容	今後の対応(方針)
学校教育課	塩入学 議員	委員会	青木島子ども未来プラン(案)について	青木島小学校内に児童センターのスペースを無理に作ろうとしているのではないか。学校側に無理に空けさせようとしていないか。学校の空き教室(スペース)がないなら、増設やプレハブで児童センターを用意することも考えるべきである。できるだけ早く進めたほうが良い。	夕方には子どもがいなくなるので、教室は空いている。その時に子どもプラザとして使用するにはどうすればよいのか、学校やPTAなどの意見を聞きながら調整・検討していきたい。結論を急がないよう進めていきたい。
学校教育課	市川和彦 議員	委員会	中山間地域の教育環境について	中山間地域の子どもたちが利用するスクールバスは、片道どれくらいの通学時間を要しているか。小中学校の教育環境において、(寮生活のような)拠点を1か所にまとめて通学させることも検討してほしい。	例えば信更地区の場合は、篠ノ井地区に通っているが、通学途中に何軒寄るかで時間は変わるため、現在は概ね1時間はかかる状況である。
南部図書館	佐藤久美子 議員	委員会	議案64号「南部図書館移動図書館車両の取得について」	<ul style="list-style-type: none"> ・契約の中には車両の改造費も含まれているのか。 ・現在の車両から改善した点はあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改造費も含まれた額である。 ・H30年3月に更新した「いいづな1号」R2年2月に更新した「いいづな2号」に準じた仕様としており、利用者の声も聴いている司書に確認しても2台の車両に問題はない。なお、現在の車両は古く運転しにくい部分もあるが最新のものになる。